

.....

うきたむ考古通信

.....

2016年6月号

■発行者	うきたむ考古の会
事務局	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内 〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津2117 電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

♥「赤ちゃん手形をつくろう」1,000 個の大台にのる

●ゴールデンウィークの4月29日から5月5日まで「赤ちゃんの手形をつくろう」を開催しました。29日114個、30日117個、1日140個、2日99個、3日150個、4日191個、5日189個で合計1,000個となり、7日間と例年より2日間長かったこともあり、これまでの記録を大きく更新しました。

今年も手形とりの様子や手形の写真をほぼ全点毎日ホームページに掲載するとともに、会場にも前日までの写真をプリントして貼り付けました。参加者の方で画像データをご希望の方にはメールで送信するサービスを行いましたが、50名を超える方から要望がありました。

●準備段階、そして、期間中にお手伝い頂きました会員の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

♥春の遺跡めぐり

●6月5日（日）に昨年に続いての北越の史跡や資料館を巡る「春の遺跡めぐり」が行われました。今回も町のマイクロバスでの旅行となりました。

総勢27名で7時に資料館を出発し、9時30分に胎内市の奥山荘歴史の広場に到着しました。胎内市教育委員会の水沢幸一さんから紹介いただいた金子さんに歴史館と江上館跡、坊城館跡を詳細に案内していただきました。資料館に展示されている江上館から出土した目を見張るような国産陶器や輸入陶磁器に感激しました。また、城の山古墳の出土品もじっくりと見ることができました。

その後、建物の一部が復元された江上館を見学しました。水堀と高い土塁、それに囲まれた内部の様子などを見ながら、中世の居館に思いを馳せました。門の前で記念撮影を行い、その後、鎌倉時代後半の三浦和田一族の屋敷跡としてみられている史跡坊城館を見学しました。総柱建物、石組井戸などの遺構が発見され、史跡公園として整備され

おり、平面展示となっていました。

昼食は新発田市内の割烹でおいしく頂きました。昼食後は新発田城を見学しました。重要文化財の表門、旧二の丸隅櫓、復元された辰巳櫓の内部まで しっかり見せていただきました。新発田城を後にし、予定になかったのですが、外から重要文化財の武家屋敷も見学しました。その後、再び胎内市に戻り、歴史館で見学させていただいた 4 世紀の素晴らしい出土品があった城の山古墳を見学し、問題となっている墳丘の形について、それぞれの考えを披瀝しながら議論をして、古墳を後にしました。最後に関川村の歴史とみちの館を見学し、帰途につきました。

考古の会事業報告

♥考古の会結成 20 周年事業

●昨年度の総会で承認されました案内看板の設置について、県と町と協議を重ね歴史公園の所有者である高畠町に寄付するということになり、2016 年 2 月号の考古通信で寄付を呼びかけたところ、多くの皆様から賛同していただきました。設置場所が県南自然公園の特別地域内で県知事の許可が必要ということになったため、事務手続きが年度を越えてしまいましたが、4 月下旬に許可がおり、5 月 2 日に設置工事を行いました。

総会の折に、出席者の皆様に披露することができました。今後は、来館者が通り過ぎるということもなくなると思います。ありがとうございました。

♥総 会

●5 月 7 日（日）に考古の会の定例総会がありました。出席者は 16 名でした。佐藤前館長が座長となって審議が進められました。協議では事務局から平成 27 年度の事業、決算の説明があり、佐藤監事から監査報告があり、質疑を経て承認されました。引き続き 28 年度の事業・予算の審議にうつり、こちらも原案どおり承認されました。

●総会時に講演は震災復興調査の支援ということで山形県教委から宮城県教委に派遣され、今年で 3 年目を迎える長橋至氏に「合戦原遺跡の横穴墓」という演題の講演をしていただきました。山形県内には 1 基もない「横穴墓」の構造と今回の調査の目玉となった「物語性のある線刻画」をもつ横穴墓を中心に調査成果を詳細に紹介していただきました。

展覧会の案内

👁️ 特別テーマ展 **遺跡今昔物語**

特別テーマ展は公益財団法人山形県埋蔵文化財センターとの共催で、これまでに 5 回開催してきました。公益財団法人山形県埋蔵文化財センターの事業内容の見直しに伴い、今年度は本館の主催事業となりましたが、これまでと同様、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターの全面的なご協力をいただいて展示を行うことができました。

山形県内ではこれまでに 800 箇所以上で発掘調査が行われてきましたが、その多くは記録保存のための緊急発掘調査でした。そのため、調査後の遺跡地は道路や建物、大区画の水田、畑地、河川、ダム等に姿を変えます。

今回の展示では河川や校舎となった「藤島城跡」、高速道路となった「お花山古墳群」、

霞城セントラルビルとなった「城南一丁目遺跡」、満水時には横川ダムに沈む「下叶水遺跡」の4遺跡の調査成果を展示しました。

各遺跡の縄文時代から現代までの342点の出土品を展示しています。現代人の日々の営みになくてはならない施設で、かつてどのような暮らしがあったのか、思いを馳せていただければ幸いです。なお、展示期間は6月11日から9月11日までとなります。

館主催事業案内

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

考古学入門講座Ⅱ

考古学とは何か、遺跡や遺物から何が分かるのか、
当館館長が考古学を基礎から分かりやすくお話しします。

◇ 日程・内容 時間は各日とも13:30から16:00(内容は変更になる場合があります)

第1回 7月10日(日)

『弥生時代』

19. 弥生時代とは 20. 稲作の発展
21. 集落と墓 22. 弥生時代の山形

第3回 7月24日(日)

『古墳時代Ⅱ』

27. 山形県と古墳とその変遷
28. 山形県の古墳時代の住居と集落
29. 山形県の古墳時代の土器と木製品

第2回 7月17日(日)

『古墳時代Ⅰ』

23. 古墳時代とは 24. 住居と集落
25. 生産と流通 26. 古墳と副葬品

◇ 会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

◇ 受講料 1回につき 一般300円 中高生100円

◇ 申込み 各開催日の1週間前まで(当日申込みも可)

※郵送・電話・ファックス・メール等にてお申込みください

◇ 申込み先 〒992-0302 東置賜郡高島町大字安久津2117

電話:0238-52-2585 FAX:0238-52-4665

e-mail: info@ukitamu.pupu.jp

-----キートン-----

考古学入門講座Ⅱ受講希望申込書

平成28年 月 日

ご希望の受講日に○を付けてください。

(7月10日 ・ 17日 ・ 24日)

お名前

お電話

ご住所

(ファックスの場合は切り取らずにこのままお送りください)

👤第X I 期うきたむ学講座 講座の概要

テーマ：置賜の歴史と生活をさぐる

全体のテーマを「置賜の歴史と生活をさぐる」と設定して、各講座を開催する。置賜地方の歴史と、人々の生活に関する研究状況は、近年、新しい成果などが上がってきている。今回の講座では、そうした近年の新しい成果を広く一般に公開し、置賜地方、ひいては山形県の地域理解に資することを目的とする。

- 特別講座 平成 28 年 10 月 29 日(土)「白鷹町で開催」
平吹利数氏（白鷹町文化財保護審議会）「野仏に秘められたもの P II」
宮本晶朗氏（白鷹町文化財保護審議会）「塩田行屋の仏像とその由来(仮題)」
- 第 1 回 平成 29 年 1 月 15 日（日）「伊達時代の置賜」
第 1 回講座では、今年、米沢市の館山城跡が国の史跡に指定されたことを受けて、館山城を整備した戦国時代の伊達氏と城郭・城下町について最新の調査成果を踏まえた講座とし、地域の歴史理解を深める。
今野賀章氏（福島県伊達市教委）「伊達氏のふるさと梁川城」
宮田直樹氏（米沢市教委）「伊達時代の米沢」
- 第 2 回 平成 29 年 2 月 12 日（日）「置賜の産業 焼き物編」
第 2 回講座では、置賜の産業として窯業を取り上げる。近年の発掘調査でその存在が確認された、飯豊町の窯跡を中心に置賜地方の焼き物の歴史を明らかにすることによって、これまであまり知られていなかった置賜地方の窯業を解明する。これによって人々の生活に密接な焼き物の歴史理解を深める。
高橋 拓氏（飯豊町教委）「近世置賜の窯跡」
渡辺芳郎氏（鹿児島大学）「江戸前期の地方窯業」
- 第 3 回 平成 29 年 3 月 5 日（日）「置賜の生活」
第 3 回講座では、特に置賜地方の人々の生活について、新発見の資料や最新の調査成果を解説いただき、当時の人々の生活のありようについて、理解を深めることを目的とする。
阿部宇洋氏（公財 農村文化研究所）「戦前・戦中の置賜の民俗」
伊藤義隆（いとうよしたか）氏（川西町文化財保護協会）「川西町の石造物」

※ 7 月 9 日の実行委員会で正式に決定する予定。

訂 正

4 月号で企画展記念講演（鈴木三男氏）の開催期日を 11 月 20 日(日)とお知らせしましたが、11 月 13 日(日)に変更いたします。お詫びして訂正させていただきます。